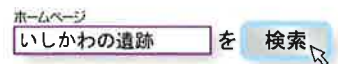


こまつし だいのりょういせき
小松市 大領遺跡 現地説明会資料

- 〔調査地〕 小松市大領町、今江町地内
- 〔調査原因〕 北陸新幹線建設
- 〔委託者〕 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構
- 〔受託者〕 石川県教育委員会
- 〔調査担当〕 公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
- 〔調査期間〕 平成29年4月～8月（予定）
- 〔調査面積〕 1,940㎡（予定）

平成29年7月23日（日）
 （公財）石川県埋蔵文化財センター



〔調査概要〕 大領遺跡は、木場潟の北側約500mに位置し、北東側約200mには県指定史跡浅井畷古戦場があります。今回初めて発掘調査が実施されました。

発掘調査の結果、古代（奈良・平安時代）と中世（鎌倉・室町時代）の2つの道路状遺構を確認しました。古代のものは両側に側溝が伴い、芯々（両側溝中心間の距離）幅約9.5m、路面幅約8mで、中世のものは芯々幅約7.5m、路面幅約7mで同じく両側に側溝が伴います。両道路状遺構とも路面は後世に削平を受けていましたが、それぞれ延長約30m分が直線状にみつかっています。出土遺物から、古代の道路状遺構は、8世紀後半～9世紀初頭、中世の道路状遺構は、16世紀後半には機能していたと考えられます。

遺跡付近は、現在も国道やJR北陸本線が走る交通の要衝であり、今回の発見は南加賀地域における古代・中世の陸上交通路のあり方を知る上で、貴重な手がかりとして注目されます。

また、縄文時代後期（約3,000～4,000年前）頃の土器や石器が出土していることから、周辺に縄文時代の集落が存在していた可能性もあります。



大領遺跡の位置



上空から見た遺跡の位置



調査区の位置

◎石川県遺跡年表

西暦	時代	日本の動き	石川県の動き	大領遺跡のようす
10000年	旧石器	上遊の出現 貝塚の形成	丘陵上で石器を使った生活が始まる	縄文土器や石器が出土
3000年	縄文	農耕文化が広がる 金属器の使用	定住的生活の始まり 大規模穴住居が出現する 巨大木柱列がつくられる	
3000年	弥生	農耕文化が広がる 金属器の使用	方形周溝墓・高地性集落の出現 低地で平地式住居がつくられる	
250年	古墳	大規模古墳がつくられる 須恵器の生産がはじまる	玉置古墳の形成 前方後円墳がつくられる 瀬内式石室がつくられる	畑の畝溝がつくられる 古代の道路側溝が掘られる 古代の建物？が建てられる 古代の掘立柱建物が増えてくる
710	奈良	平城京への遷都	藤原氏の没落(718) 大伴家持の没落(748)	
794	平安	平安京への遷都	加賀国の設置(823) 加賀国・能登に国分寺が設置される 加賀藩が設立される(849) 山岳信仰が盛んとなる 中世集落への開拓生産が始まる	
1192	鎌倉	鎌倉幕府の成立	白山・石動山などの山岳信仰圏となる 鹿野を中心として集落が形成される	
1338	室町	室町幕府の成立	山城が築かれる 加賀一向一揆が起る	中世の水路が掘られる
1573	安土・織田	室町幕府の滅亡 江戸幕府の成立	前田利家の金沢入城 浅井頼元の没落	中世の道路側溝が掘られる
1603	江戸		山中町九谷で陶器を焼き始める	畑の畝溝がつくられる
1868	明治	明治維新 第二次世界大戦	石川県の誕生(1872)	近世の水路が掘られる 水田・畑がつくられる

◎小松市「大領遺跡」で発見された道路状遺構



[3区] 古代の道路状遺構 (上空・南東から)



[3区] 古代の道路状遺構 (北東から)



[1区] 中世の道路状遺構 (上空・南東から)



[1区] 中世の道路状遺構 (南西から)

◎小松市「大領遺跡」で発見された道路状遺構

3区で検出した古代の道路状遺構は、上幅約 1.5m、深さ約 35～50cm、断面逆台形やV字形の側溝を両側に持つ。側溝は土層の堆積から掘り直しの痕跡がみられる。路面は後世の耕地整理により削平されているが、側溝の芯々幅で約 9.5m、路面幅約 8mを測り、延長約 30m分を直線状に検出している。北から東へ約 60度傾いた方向に延びている。

1区で検出した中世の道路状遺構は、上幅約 40～80cm、深さ約 25～40cm、断面U字形やV字形の側溝を両側に持つ。側溝は土層の堆積から掘り直しの痕跡がみられる。路面は後世の耕地整理により削平されているが、側溝の芯々幅で約 7.5m、路面幅約 7mを測り、延長約 30m分を直線状に検出している。北から東へ約 55度傾いた方向に延びている。

両道路状遺構は約 40m離れた場所で見つかったが、北東方向へ延長させると、あさいなわてこせんじょう浅井礮古戦場の西側を通り、みゆきづかじょう御幸塚城(今江城)跡の東側を通る。

[用語解説]

「浅井礮の戦い」

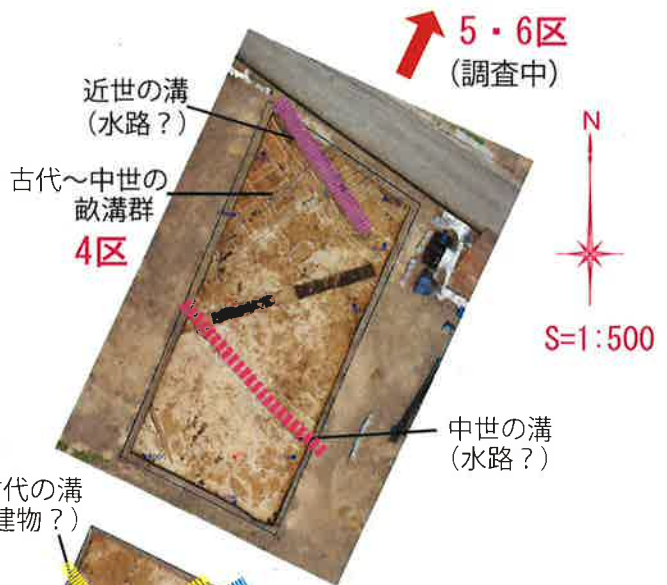
慶長五年(1600年)八月、徳川家に属した金沢城主前田利長と豊臣家に味方した小松城主丹羽長重との軍が、関ヶ原戦の前哨戦として浅井村の礮なわて(田の間の畦道やまっすぐな長い道)での戦い。

「御幸塚城(今江城)」

木場湯と今江湯に挟まれた台地上に位置する。かいどう街道が西を通り、加賀一向一揆と越前朝倉氏との争いや織田信長軍と一揆方の争いなどでたびたび攻防の地となった。関ヶ原戦の前には東軍の前田利長が家臣を布陣させ、浅井礮の戦いの契機となった。



[5区] 畝溝群の検出状況 (南西から)



[3区] 古代の道路状遺構と道幅 (南西から)



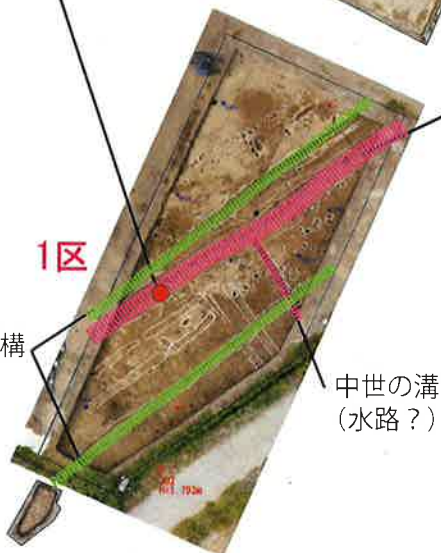
側溝から出土した古代の須恵器 (三耳瓶)



水路から出土した中世の土師器



検出面の砂層から出土した縄文土器 (深鉢)



[1区] 中世の道路状遺構と道幅 (南西から)

大領遺跡の調査概要 (S=1/500)

◎石川県内で発見された「古代北陸道」^{こだいほくりくどう}と道路状遺構



古代北陸道推定ルートと駅家



野々市市 [三日市 A 遺跡]

※野々市市教育委員会提供



金沢市 [観法寺遺跡]



津幡町 [加茂遺跡]

◎石川県内で発見された「古代北陸道」^{こだいほくりくどう}と道路状遺構

県内では、奈良・平安時代に官道（国家によって整備・管理・維持がなされた道路）の一つである、「古代北陸道」と考えられる道路状遺構が、以下の遺跡で確認されている。

○野々市市「三日市 A 遺跡」^{みっかいち}

加賀国比楽駅から田上駅間に位置する。道路幅は芯々（^{しんしん}両側溝の中心での幅）で約9～9.5m、路面幅では約8～8.5mの道路側溝が検出され、その後の別地点での調査により総延長約530mが確定された。

また、北側約200mの三日市ヒガシタンボ遺跡では、路面幅約6mの道路が検出されており、ルートを変えて改修された北陸道の可能性がある。

○金沢市「観法寺遺跡」^{かんぼうじ}

加賀国田上駅から深見駅間に位置する。道路幅は芯々で約10m、路面幅では約8mの道路側溝が延長約100m検出されている。7世紀末に出現し8世紀末に廃路となる。

○津幡町「加茂遺跡」^{かも}（国指定史跡）

加賀国深見駅もしくは深見駅から横山駅間に位置する。延長約85mが検出されており、奈良時代には道路幅が芯々で約9m、路面幅では約7.5mを測るが、9世紀になり約5mに縮小されている。道路を横切る大溝からは、古代のお触れ書きとして知られる「加賀郡榜示札」^{かがくんぼうしふだ}（重要文化財）が出土している。